

順位	質問議員名	発言要旨	答弁を求める者
1	竹中 進一	<p>にいかっぷホロシリ乗馬クラブ施設移転と西泊津町有地について</p> <p>I. 町側から提案のあった「にいかっぷホロシリ乗馬クラブ」施設を西泊津「ヒルズパークゴルフ場」隣接地への移転予定地は、これからも相当な土量が埋め立てられることとなっており、移転までの期日も限られ地盤の安定に不安がある中、冬期間の工事も考えられるため、別な箇所の検討をすべきではないか。</p> <p>2. 工事用取付道路や水の確保など困難な問題はあがるが、Bゾーンへの移転は考えられないか。</p> <p>3. Bゾーンは現在未開発の土地となっているが、感動を覚えるほどの素晴らしいロケーションがあり何事にも代えがたい町民の貴重な財産といえる。この際将来展望に立って、現「ホテルヒルズ」と「パークゴルフ場」、さらには隣接地で計画されている「ワイナリー」などとBゾーンの「にいかっぷホロシリ乗馬クラブ」が一体となったわが町の観光拠点として将来展望を見据えた戦略を立てていく考えはないか。</p>	町長
2	武藤 勝罔	<p>地域資源を生かした町づくりについて</p> <p>5月16日室蘭工業大学院生による「新冠町・地域課題解決プロジェクト」の発表会有り、貴重な観光資源が生かされていないと指摘されていた。全国で活気ある町づくりをしている所は、地元にある資源を活用しているのが共通している。今後の町づくりに係わり、特に力を入れるべきレコードと馬の活用の2点を伺う。</p> <p>1. レ・コード館は利用状況が良くないとの指摘であった。日本に誇るべき施設であり、その活用について学芸員の配置、データベースの加速化など今までも数名の議員が取り上げてきた。また、昨年の決算審査特別委員会でも指摘されているが、今後どうしていくのかがよくみえない。町のホームページには全国からレコードを寄贈された方々の思いが載っている。それらの方の思いに応えるために、活用をどう進めていくか等の現時点での検討状況を伺う。</p> <p>2. 馬の活用では、今世界では新しい馬の文化づくり、馬の魅力を引き出す取組みが広がっている。その一つとしてホースセラピーがある。乗馬療養が精神の回復や、身体の回復効果があると指摘されている。日本中央競馬会も昨年からは引退競走馬等の馬の多様な利活用普及推進に取り組んでいる。浦河町は全国でも先駆的に障害児、障害者やあるいは高齢者を対象としてホースセラピーに取り組んでいる。町としても馬という資源を生かした取組みをすべきと思うがいかがか。</p>	町長・教育長

順位	質問議員名	発言要旨	答弁を求める者
3	武藤 勝罔	国民健康保険の都道府県化について	町長
<p>4月から新制度がスタートしたが、4点について伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「保険者努力支援制度」という仕組みもスタートしたが、その内容について国に報告が求められている。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・町が国民健康保険の「赤字削減」をどう進めようとしているのか。</li> <li>・町が収納対策の強化をどう行っているか。</li> <li>・医療費抑制などのため、特定検診などにどう取り組んでいるか。</li> </ul>           などについて、どう報告したのか伺う。         </li> <li>2. 新制度により国民健康保険税は、協会けんぽの保険料と比べてどうなったか。例えば給与収入300万円の4人家族（給与所得者本人が30代、妻が30代の専業主婦、子ども2人）では協会けんぽの保険料はいくら、国民健康保険税はいくらか。また、給与収入180万円の単身世帯（20代）では、協会けんぽではいくら、国民健康保険税ではいくらか。</li> <li>3. 今まで5回国民健康保険税の引き下げについて質問してきた。昨年9月の第3回定例会では、5項目の引き下げ策について伺った。全国知事会などは「国民健康保険の構造問題」の解決策の1つとして、子育て世帯の国民健康保険税を高騰させる要因である「均等割」の見直しを国に要望している。これを受けて、今年度から各地で子どもの均等割の減免や、多子世帯の国民健康保険税の減免に踏み出す自治体が出ている。具体的に伺う。もし本町で18歳未満の子どもが3人以上いる世帯を対象に減免した場合、第3子から減免の場合の対象者数と減免総額、また第2子から減免の場合の対象者数と減免総額はいくらになるか。国も赤字解消のための法定外繰入れは解消すべきと言っているが、国民健康保険法の規定に沿った「国民健康保険税の減免に充てるため」の繰入れは「続けてもよい繰入れ」と言っているため、これを活用し負担軽減に取り組むべきと思うがいかがか。</li> <li>4. 国民健康保険税や協会けんぽなどの比較検討ができ、内容がよくわかるように本町でもモデル世帯を設定し、保険料算定などを町民に示していく必要があると思うが。国民健康保険税早見表もあれば便利。</li> </ol>			
4	武藤 勝罔	学校閉庁日の設定について	教育長
<p>「働き方改革」の一環として、教職員の長時間労働軽減のため「学校閉庁日」を設定とのことに係わり見解を伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 道の「アクション・プラン」では、平成32年度までに年9日の実施割合を100%としている。新冠は年間5日間の範囲としていて、これは管内教育委員会の統一した取り組みとしているが、「働き方改革」の取り組みであれば直ちに今年度から完全実施すべきと思うが、できないのはなぜなのか。</li> <li>2. 年末年始の勤務を要しない日を含めて全体で11日間の閉庁日となる見込みと言っているが、12月29日から1月3日までの特別休暇を含めるのは、この取り組みの趣旨とは違うのではないか。</li> <li>3. 部活動休養日は「アクション・プラン」では年間73日を目標としているが、現在新冠では何日設定されているのか伺う。</li> </ol>			

順位	質問議員名	発言要旨	答弁を 求める者
5	長浜 謙太郎	奨学金制度の在り方と今後の方向性について  当町の奨学金制度の在り方と今後について以下の点を伺う。 1. 現状、当町の奨学金制度は貸付型となっているが、給付型とする考えはないか。 2. Uターン・Iターン・Jターン等を対象にした奨学金返還支援事業を実施する考えはないか。	教育長
6	氏家 良美	新冠町における宅地分譲計画について  新冠町においては、西泊津における宅地分譲（レ・コードの森）が第1期、第2期ともに販売が好調でありました。 現在、民間による宅地分譲も行われているところではありますが、新冠町での定住・移住を検討するときに、住む場所の選択肢が多いことが新冠町に住むことを決める要因の一つとなると考えますので、以下のことを伺います。 1. 新たに宅地分譲を検討する考えはあるか。 2. 今後、民間による宅地分譲開発が計画された場合、町としてどのような考え方でかわりを持っていくのか。	町長
7	但野 裕之	「道徳」正式教科化について  学習指導要領の改訂で、今年度4月から小学校の道徳が正式な教科になり、検定教科書の使用が義務付けられ、成績評価もスタートした。 文部科学省は、学校行事の準備や学級活動などに使われていた従来の道徳の授業を評価を付けない「教科外の活動」から「特別な教科」に格上げした。検定教科書を使用し、評価は数値ではなく記述式。授業は年間35時間（小学1年生のみ34時間）実施する。 国は「考え議論する道徳」を目標に掲げている。 正式教科スタートにあたり、どのような取組みを行い研修を重ねてきたのか。検定教科書決定の経緯は。また、次年度からは、中学校でも道徳の教科化がスタートする。価値観の押し付けにならないよう慎重に授業を進める必要があると思われる。どのように準備を進めているのか。	教育長